

8月8日(水)～9日(木)

「平成30年度 全国SSH生徒研究発表会」へ参加しました。

今年度のSSH生徒研究発表会は、8/8～9で神戸国際展示場を会場に行われました。秋山仁先生の基調講演から始まり、生徒には高密度の2日間であったように思われます。本校からは、生物チーム3名が「ゴキブリの活動周期と目的」というテーマで発表しました。2日間で、ほぼ7時間におよぶポスター発表を初めて経験でき、全国の強者からの質問を受けることで、多くを反省し吸収したようです。また、国内208校、海外26校の発表が集まる非常に大きな大会を経験し、聴講することでも、研究の指針や着眼点、分析方法などなど、数え切れない収穫があったように思います。

以下、参加生徒3名の感想を掲載します。

陶 美聡 さん

今回、SSH生徒研究発表会に参加してみて、最も強く学んだのは、発表の仕方についてです。自分たちの研究で何が伝えたいのか、どうすれば伝えることができるのかという点が特に感心させられました。良い発表では、質問に対しても十分な準備ができて質問以上に詳しく解説されていました。私も質問に対する準備はしていったつもりでしたが、意外な視点からの質問には十分に答えることができず、反省点もたくさん見つけることができました。

大庭 和 さん

1日目は、秋山仁先生による基調講演では、日常から数学を見つける楽しさを教えていただき自分でもできそうな気がする興味深いお話でした。自分たちの発表では、長時間発表しっぱなしという状況でした。説明に加え質疑応答の連続で高校生から大学生、大人の方や審査員の先生方にも様々な質問を受けました。この中で気づかされることが多くあり、大変だった以上に勉強になりました。他の高校のポスターを見に行ったときも、着眼点が面白いものが多く楽しく学べました。2日目は、分野ごとに選抜された6校の口頭発表がありました。発表もわかりやすく工夫がなされ、質疑応答も堂々として説得力がありました。この日のポスター発表では、海外の高校の発表も見ました。英語での説明と質疑は困難でしたが楽しい経験になりました。2日間、これまで経験したことのない高密度で学ぶことができました。

篠原 佳音 さん

SSHの全国大会ということで4000人以上の大規模な大会で時間も長くとても緊張しました。たくさんの方が私たちのポスター発表を聞いてくれました。審査員や他の高校の生徒から想定外の質問に、戸惑うこともありましたが指摘やアドバイスも多くもらいました。自分たちの研究の足りなかったところや改善点に気づかされました。また、全国の高校では、高校の学習領域を超えた専門的な研究を行っているところも多くあり、全国のレベルの高さを感じました。

『さて、2年生諸君、次は君たちの出番です。各班ともに研究の深化に努め、全国を目指しましょう。』

